

平成28年度 岩手県立盛岡商業高等学校経営計画

校長 田 中 耕之助

	対 象				
	生徒	保護者	地域	他（進路先）	
1 現状把握及び将来展望	(1) 学校 に対する ニーズ	<ul style="list-style-type: none"> ・興味深くわかりやすい授業 ・部活動の活性化と楽しい学校行事 ・進路目標の確立と達成 ・誰もが安全・安心で楽しく充実した生活 	<ul style="list-style-type: none"> ・わかる授業と確かな学力の定着・向上 ・基本的な生活習慣の確立と部活動の活性化 ・きめ細かい指導と情報提供による進路目標の実現 	<ul style="list-style-type: none"> ・部活動の活躍 ・挨拶や地域行事への参加による地域活性化への貢献 ・開かれた学校 ・地方創生に寄与できる人材の育成 	<ul style="list-style-type: none"> ・盛商ならではの「土魂商才」を身につけた優秀な人材の輩出 ・時代の変化に対応できる市場開拓型人材の育成
	(2) 学校 に影響を 与える変 化	<ul style="list-style-type: none"> ・現行学習指導要領の完全実施に伴う観点別評価の本格実施 ・高校・大学・高大接続の三位一体改革と新学習指導要領への対応 ・平成28年度希望郷いわて国体、いわて大会の開催 ・高度情報化社会とグローバル化、少子高齢化、地方創生に対応できる人材需要の増加 ・東日本大震災からの岩手及び東北の復興 ・変化する経済情勢と依然流動的な雇用環境 ・県教育委員会の学校再編計画と商業教育への期待 			
	(3) パー トナーと の関係	パートナー			
	P T A並びに同窓会	教育委員会	他（関係機関）		
	<ul style="list-style-type: none"> ・P T A、同窓会ともに協力的である。 ・保護者による学校行事やP T A行事への積極的な参加を求めるとともに保護者並びに同窓会に対して一層情報発信に努め、役割分担を明確にすることでさらに連携を深める。 	<ul style="list-style-type: none"> ・「岩手県民計画アクションプラン」「いわての復興教育」等をふまえた校内目標に取り組み、中高連携を図りながら目標達成を図る。 ・継続して、教職員・予算の適正な配置と積極的な支援を希望する。 	<ul style="list-style-type: none"> ・市、商工会議所や職業安定所をはじめとする諸機関、団体、企業等と連携を密にし、情報の共有・相互交流を推進する。 ・全国高等学校商業教育協会等の全国組織とも一層の連携を図る。 		
2 目指す 学校像	～「土魂商才」の校是のもと、社会で活躍する人材を育てる学校づくり～				
	<p>1 校訓 「至誠 協同 自立」</p> <p>2 教育目標</p> <p>(1) 知・徳・体の調和がとれ、高い志をもって生涯にわたり学び続ける意欲を育てる。</p> <p>(2) 適切な思考・判断・表現により、人とコミュニケーションを図れる能力を育てる。</p> <p>(3) 商業に関する高い専門性・徳性と優れた行動力を有し、社会で活躍できる能力を育てる。</p> <p>(4) 他者を思いやり、互いに協働することによって、産業社会の発展に資する力を育てる。</p> <p>(5) 起業家精神を身につけ、自己及び社会の課題解決に向け常に挑戦する人間を育てる。</p> <p>3 目指す学校像</p> <p>(1) 安全・安心の下、生徒が明るく、使命感と目標を持って、共に学び合う学校</p> <p>(2) 輝かしい伝統と礼節を重んじるとともに、進取の精神で、新時代の創造に貢献する学校</p> <p>(3) 幅広い教養と高度で質の高い専門教育を施し、進路目標達成に最大限努力する学校</p> <p>(4) 盛岡をはじめ地域の企業の担い手、将来の経営者として活躍できる人材を育成する学校</p> <p>(5) 自分たちの学校生活に満足しつつも、生徒・教職員が一丸となってさらに高め合う学校</p> <p>4 目標達成のための方途</p> <p>(1) 「生徒の心に灯をともし授業」を合言葉に、目標達成型の授業と観点別評価を進める。</p> <p>(2) 常に授業力の向上に努め、課題解決能力とコミュニケーション能力の向上を図る。</p> <p>(3) 商業倫理を究め「土魂商才」を体現できる文武両道の生徒指導の充実を図る。</p> <p>(4) 生徒の志を育むため、計画的にキャリア教育を展開し、早期の進路実現を図る。</p> <p>(5) 全職員が自らのP D C Aサイクルを意識し、授業改善や業務改善、指導力向上を図る。</p> <p>(6) 県民から信頼される学校として、危機管理とコンプライアンスの徹底を図る。</p>				

5 本年度重点目標

(1) 学習指導の充実

- ① 各科目とも「基礎的・基本的な知識・技能」「課題解決のための思考力・判断力・表現力」「主体的に学習に取り組む態度」の育成を目指し、観点別評価の工夫と実践を行う。
- ② 授業のユニバーサルデザイン化の徹底とともに教材研究に努め、「授業力」の向上を図る。特に全教科でアクティブ・ラーニングの研究をすすめ、生徒の主体的な学びを推進する。また上記の目的のため、校内外での教員研修を推進する。
- ③ 授業と連動した課題を計画的に出し、家庭学習習慣の定着につなげる。
- ④ 専門教科及び英語における取得資格目標を自ら設定させ、上位級に積極的に挑戦させる。
- ⑤ 国数英の主要三科目の基礎・基本の定着を図り、平成29年度基礎力確認調査(2年次)での目標正答率を、国語55%、数学55%、英語54%とする。(県平均の105%)
- ⑥ 授業公開や互見授業の実施参加率を100%とし、授業者・参観者双方の授業力向上を積極的に進める。さらに中学校への授業公開を増やし、指導と評価の研究を進める。
- ⑦ 専門教科における高大連携授業を進め、さらなる専門性と向学心を養う。
- ⑧ 盛商マート、楽天IT学校などを活用し、実践的なビジネス教育を継続して展開する。
- ⑨ NIE(新聞学習)に取り組み、社会的課題についての問題解決学習に資する。

(2) 生徒指導の充実

- ① 基本的生活習慣の確立
 - ア 欠席率・遅刻率ともに1%以内を目標とし、「時間を守る」指導を行う。
 - イ 「挨拶」「立腰」「整容・マナー指導」「清掃」の徹底により社会性の育成を図る。
 - ウ 規範意識を高め、早期発見と未然防止により問題行動ゼロを期す。
 - エ 「食育」を推進し、朝食を摂る割合100%を目指す。
- ② 部活動・対外活動の活発化
 - ア 部活動は全員参加とし、運動部・文化部ともに県大会上位進出、全国大会を目指す。
 - イ 希望郷いわて国体、いわて大会の成功に向け、部活動、補助員等での貢献を期す。
 - ウ 学校行事での生徒の活躍の場を増やし、生徒会活動・委員会活動を活性化するとともに盛岡さんさ踊り等への積極的な参加によって、地域文化理解と自己有用感を育てる。
- ③ 生徒理解と相談支援の強化
 - ア 特別な支援を必要とする生徒を把握し、心身の健康管理と、相談態勢の確立に努める。
 - イ 個々の生徒に対する共通理解を図り、不登校生徒ゼロを目指す。
 - ウ 学校評価で「高校生活に満足している」とする生徒の割合が、85%以上となることを目標とする。(H27:82.9%)
- ④ 「復興教育」「防災教育」等への取り組み
 - ア 「復興交流支援活動」：生徒会交流や部活動交流を中心に取り組みを進める。
 - イ 防災・減災について学習する機会を設定し、グローバルな視点でのESD(持続発展教育)と併せ、課題解決型学習の推進を図る。

(3) 進路指導の充実

- ① 「職業倫理」と将来の自己実現の「志」を育み、個々の進路目標を早期に確立させる。
- ② 継続して進路目標達成率を進学、就職ともに100%とし、早期達成に取り組む。
- ③ インターンシップや企業訪問の実施を通して、就業への理解と意識を高める。
- ④ 職業講話・進路ガイダンスの充実と適時適切な情報発信による啓発をおこなう。
- ⑤ 朝学習や課外、総合的な学習の時間や資格取得のための取り組みを強化するとともに、作文小論文指導・面接指導・添削指導等個別指導の充実を図る。
- ⑥ 地域・企業と協働した「キャリア教育」の一層の充実を図り、あらゆる場面で、コミュニケーション能力、協調性、忍耐力等の社会人としての基礎力を養う。

(4) 保護者・地域との連携

- ① PTA・同窓会と学校経営計画を共有し、総会参加率を高め、協働で目標実現にあたる。
- ② 学校評議員会や地域・保護者から指摘された要望や課題に迅速に対応する。
- ③ 地域の行事や諸事業に生徒を積極的に参加させ、相互理解と交流を深める。
- ④ 商工会議所、企業との連携による小学科の特色を生かした実学・実践研究を推進する。

(5) 開かれた学校づくりの推進

- ① 学校ホームページの迅速適切な更新や『学校案内』『盛商新聞』等による情報発信をより強化する。
- ② 体験入学や高校説明会、公開授業の機会を捉え、中学校・保護者・中学生の本校理解を促す。
- ③ 学校評価結果を公表するとともに教職員全員で共有し具体的な改善に取り組む。
- ④ 行政や商工会議所、企業と連携し、地域の人材と教育力の活用を積極的に図る。